

(10)感染症と開発の関係から「ヒト社会」のあり方を考える

(11月12日(土)13:00~15:30)講師:山本太郎氏(長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野主任、教授)

内容:なぜ、ある感染症が流行したのか、あるいはするのかわ、私たちはこれまで考えてきました。例えば、開発がもたらしたヒトの移動、労働キャンプ、都市化、歪な性比などの要因がHIVを流行させたと考えてきたのです。しかし今、その「考え方」は「逆」ではないかと思いはじめています。病原体が流行するか否かを選択するのではなく、「ヒト社会」あるいは大きく「ヒト社会のあり方」が病原体を選ぶのではないかということです。そんな話をしてみたいと思います

受講者の感想 (一部抜粋)

- ・この講義を受け、エコシステムの中にウイルスや細菌がいて、その中の一部に人間がいるということが良く理解できました。新しい視点で世の中を考えていきたいと思えます。
- ・固定概念を壊し、別の視点で世間を見ること、当然のことに疑問を持ち、調査をし、新しい視点を見つけることの大切さに気付きました。
- ・感染症の話を通じて多様性を大切にするという考え方を学ぶことができ良かったと思う。
- ・根絶ではなく共生という新しい視点を得られて良かった。
- ・エビデンスや分析を重視する、サイエンスに関わってきた山本先生が言うからこそ説得力のある内容で、宇宙のバランスポイントって何だろうと思いはせました。答えを探し続けること、その過程に人としての価値があると思いました。